

さようなら2年4組 ありがとう2年4組

いよいよ離任式だ。

さようなら2年4組。ありがとう2年4組。

離任式のあいさつに与えられた時間は短い。

だから、学級通信を書く。

でも、半分以上は24日にしゃべった。

離任式では24日みたいに泣かないように、短くしゃべる。

今日は泣かないぞ。

だから、今の思いを書く。

鳴和中学校に6年間いた。この6年間はとても充実した日々だった。

ほとんどが楽しいことばかりだった。でも、時には苦しいこともあったし、つらいこともあった。

だけど、すべてをふりかえてみれば、楽しい日々だった。

いつも言ってたけど、ちょっぴりマイナスがあったって、それを超えるだけのプラスがあれば、結果としてはプラスなのだ。



鳴和中学校に来たときにはいきなり3年の学級担任をした。

でもそれがまたおもしろいクラスだった。歌がうまかった。合唱コンクールではもちろん最優秀賞。自分のクラスの合唱であったが、あまりにうまく歌うので、鳥肌が立った。何でこんなに一生懸命歌える3年生なのだろうかと……こんな経験は教員をやって、はじめてのことだった。

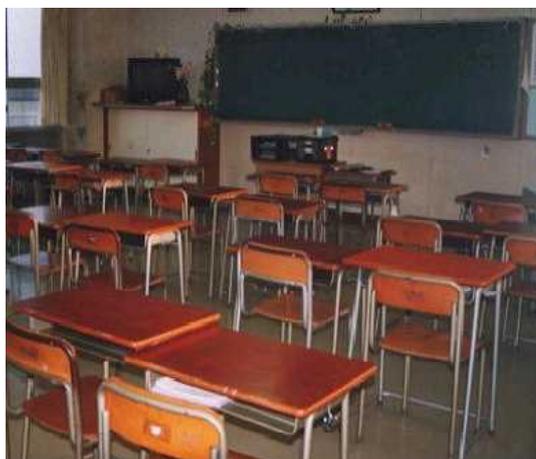
3年7組で、4階マルテホールとなり。この教室はとてもお気に入り。学級通信の名前は「エスペランサ」スペイン語で「希望」という意味。ちなみに、二度と同じ学級通信の名前を使わないことにしているので、毎年命名には苦勞する。これが15種類目の名前。

卒業式、茶金色の紋付き羽織袴で出た。彼らももう20歳。

それから2年間は教職員組合の仕事をしていた。級外だった。

まずは1年生の級外だった。だけど、担任の先生のお産のために、いきなり3学期の3ヶ月間担任をした。やっぱり、担任っておもしろいなあと思ったものだ。

次の1年間は3年の級外だった。そして、1年の学年が3年にあがってくるのを待っていた、という感じだった。級外だったのでやったことといえば、職員室の棚の整理。これが印象に残る(?)仕事。



そしていよいよ3年生の担任。

1年生の時に3か月の担任をしたのだが、やはりみんなはじめて持つという感じでクラスを受け持った。

3年6組でまたもやマルテホールの隣のクラス。マルテホールは我らのもの、と称していつもここを活用していた。修学旅行の電車の座席決めるときにはここに椅子を並べてみんなで電車ごっこ。合唱コンクールでは、6組専用の練習場所。寒くなってきたら、またもや6組が小体育館として使用。

合唱コンクールでは「黒い瞳」で優秀賞。このときの学級通信の名前が「エネルギー」ギリシア語で「現実性」。言い換えると「未来の夢の実現」といった意味。

思い起こせば、これまたおもしろいクラスだった。最初、女の子たちをまとめるのに苦勞したのだけど、最後はみんな

仲よしだった。卒業式には涙ながらにみんなと握手して別れた。この卒業式は今度は紺色の紋付き羽織袴だった。

そして、2001年4月。21世紀の輝ける出発の年。再び1年所属となり1年6組を受け持つ。
これについてはもう語らなくてもいいだろう。みんな知っているはず。学級通信たくさん出した。「夢工房」久しぶりに日本語の表題になった。

そして、2002年4月。君たちを受け持つ。
学級通信は「夢空間」鳴和中学校の総合的な学習の時間がドリーマーズ・タイムというので、01年度からつ
け始めた「夢」のつく表題。4月から3年の担任したら「夢飛行」にしようかな、なんて考えてあったのに……
夢をつくり、夢が広がり、夢に向かって飛び立つ、そんな感じで3年間続けようと思っていたのだった。
ところで、2年生を受け持つのはすごく久しぶりのことだったのだ。1987年に2年生を受け持つて以来、
もう14年間ほどは2年生をもっていなかった。いつも3年生で始まり、1年へ行き、そのあとまた3年を何回
か持つという繰り返しがずっと続いていた。だから、1年で受け持つて、2年も受け持つなんて、とても久しぶ
りだったのだ。

だから当然のことながら、3年も担任をす
るぞ、と思っていた。3年がかりの壮大なプ
ロジェクトである。プロジェクトXにも負け
ない、3年がかりの一大事業のつもりだった
のだ。

だから、それができない今、とてもさみし
い。

でも、もはやそんなことは言ってられない。
願わくば、みんなが、このままで素直でい
い子たちに育ってほしいということだ。

いや、きっとできると考えている。
自分にとっての壮大なプロジェクトは途中
になってしまったけど、君たち自身の人生を
つくるという壮大なプロジェクトは、まだま
だ途中である。現在進行形だ。

自分をつくる、それにこのあととりくんでほしい。



それにしても、この2年4組というのはなんとおもしろいクラスだったのだろう。
年度初めに言った担任のこんなクラスにするぞ！というのを覚えているだろうか。

「面白くて、賢くて、丈夫な子」である。
その通りの面白い子になったし、とても賢い集団にもなった。一応（というよりめちゃくちゃ）元気でもある。
合唱コンクールでは一生懸命だった。その前のバレーボール大会がすごかった。あまりに男女ともに、そして
お互いに向けても応援しすぎて声がかれて、合唱コンクールに差しさわりが出たくらいなもの。

夏休みにはクラスキャンプが実現した。これだって、2年4組だからこそできたし、2年4組だけが実行した。
それほど、みんながやろうという気になってとりくんだし、おうちの人があんなにたくさん来てくれるとは思わ
なかった。これだって、ほんとうに感謝している。夜は自分たちで活動して、担任は来てくれたおうちの人たち
とずっとしゃべって、ビール飲んでるだけだった。だけど、うまいこと活動して、みんなは思い出に残るキャン
プにすることができた。

ふりかえれば、成績もよくなった。クラスがまとまれば、成績も上がるぞと言っていたとおりになった。



ほんとうに何事にも一生懸命とりくみ、どんどんクラスの
まとまりをつくっていった。

3月の女子全員参加のお別れ会にも驚いた。いつの間にそ
んなことを企画して、そして実行したのか。さすがというか
素晴らしいというか、ただただ感心した。

そして、バスケットボール大会での優勝だ。

ふりかえれば、いろいろなことが思い出される。

どれもが楽しい思い出だ。

こんなクラスを忘れられるはずがない。

鳴和にいた6年間はほんとうに充実していたと思う。

それは一つには、職場の仲間たちに恵まれていたからだ。多くの先輩、同僚たちに支えられ、楽しく仕事をすることができた。

そしてもう一つには、とてもいい生徒たちにばかりめぐり会えたことだ。どのクラスも楽しいクラスだったし、1年間が終われば、いいクラスやったなあ、という思いばかりだった。

それに何より思うのは、それぞれのおうちの人に、いつも理解してもらって、協力してもらえたからだ。それは何よりクラスキャンプに表れている。

そんな、自分を支えてくれた職場の仲間たちと、いつも楽しい思いをさせてくれた生徒たちと、いろいろと協力してくれたおうちの方々に深く感謝したい。

ありがとうございました。

自分は元気にやるつもりだ。

みんなも元気にやってくれ。

時間を見つけてはホームページを更新するから、たまに思い出したら、学校からでも、家からでもアクセスしてくれ。URLは <http://www.sakane.net/> だ。メールで近況送ってくれ。待ってるぞ。アドレスは pkp@sakane.net だ。

鳴和中学校にいた最後のクラスが2年4組であったことをとても誇りに思うし、とてもよかったと思う。このクラスがそのまま3年のクラスになっていたら、どれだけすごいクラスになっていたのだろうと思う。

だけれども、もう仮定の話はできない。

お別れするというのが、目の前の現実だ。

言いたいことはまだまだたくさんあるが、ありすぎて言えない。

想い出は、まだまだたくさんあるが、大切に胸の内にしまっておく。

**さようなら2年4組、
そして、鳴和中学校
ありがとう2年4組、
そして、鳴和中学校**

最後に詩を一つ贈る。

みんなのために、そして半分は自分のために。



峠

真壁 仁

峠は決定をしいるところだ。
峠には決別のための明るい憂愁が流れている。
峠路をのぼりつめたのものは
のしかかって来る天碧に身をさらし
やがてそれを背にする。
風景はそこでとじあっているが
一つを失うことなしに
別個の風景に はいって行けない。
大きな喪失に耐えてのみ
新しい世界がひらける。
峠に立つとき
過ぎ来し道はなつかしく
ひらけてくる道は楽しい。
道はこたえない。
道はかぎりなく誘うばかりだ。
峠の上の空はあこがれのようにあまい。
たとえ行く手が決まっても
人はそこで
一つの世界に別れねばならぬ。
その思いをうずめるため
旅人はゆっくり小便をしたり
摘み草をしたり
たばこをくゆらしたりして
見える限りの風景を目におさめる。